

令和7年度 第1回 大分市自転車活用推進協議会 議事要旨

1. 日 時 令和7年6月5日（木）10時00分～10時50分
2. 場 所 大分市役所 本庁8階 大会議室
3. 出席者 別紙参照
4. 議 事
 - （1） 令和6年度事業報告（資料1）
 - （2） 令和7年度事業計画（資料2）
 - （3） 関係機関・団体の取り組みについて（資料3）
 - （4） 「大分市自転車活用推進計画」実績報告（資料4-1、4-2）
 - （5） 「ネットワーク計画」の見直しについて（資料5）

<議事要旨>

議事（１）令和６年度事業報告

番号	発言要旨	回答要旨
1	—	—

議事（２）令和７年度事業計画

番号	発言要旨	回答要旨
1	【委員】 矢羽根などの自転車誘導サインの整備については、非常に頑張ってくれているが、一つ感じるのは、それを市民の方がどれだけ認識しているかということ。 設置が目的ではなく、市民がそれを認識し、自動車や自転車に乗る際に意識してもらうことが本来の目的である。 周知・啓発をこれまでもしているとは思いますが、もっともっと市民に浸透するよう、しっかりやっていただきたいと思う。	【事務局】 自転車誘導サインの整備は高校周辺や駅周辺を中心に整備が進んでおり、モデル校の取組や、一般の安全講習会等でも自転車誘導サインの目的等について周知を行っている。 今後も、いろいろな方への周知の方法について、検討を行っていきたい。
2	【委員】 自転車誘導サインの周知について、大分市広報番組の「いいやん！大分」で取り扱ったことはあるか。 あるものをどんどん使うと良いのではないかと。	【事務局】 これまで「いいやん！大分」では取り扱ったことはないと思うが、今後はそういったものの活用も検討しながら、自転車誘導サインの周知を図っていきたい。

議事（３）関係機関・団体の取り組みについて

番号	発言要旨	回答要旨
1	【委員】 国道 442 号宗方拡幅について、自転車道の整備が進められており非常にありがたくはあるが、双方向通行となっており、非常に狭く、すれ違う際、危険な状況である。 構造的な問題によるものかもしれないが、知り合いや近隣の住民の方からも、「危ない」、「怖い」、「ちょっと細くて通れない」、という声をよく聞く。一方通行にした方が良いのではないか。	【大分県】後日回答 大分県では、宗方地区において平成 27 年度から交通容量の拡大や歩行者・自転車通行空間確保を目的に国道 442 号の道路改良事業を実施している。 自転車道については、幅員 2 m で整備を行っており、本工区は、道路の両側に商業施設等が立地していることなどを考慮した上で交通管理者や地元自治会等の了承を得て、対面通行を採用している。 また、令和 5 年度以降に整備した区間では、自転車道と歩道の間の境界ブロックを高さが低いものに変更し、自転車同士がすれ違う際にペダルが接触しないよう工夫を行っている。 地域として一方通行を望む声があるようであれば、交通管理者等とも協議しながら、最適な通行方法を検討したいと考えている。

2	【代理】 朝、街頭に立って見ていると、中学生はヘルメットをしているようだが、高校生は学校の近くでは着用しているが、それ以外ではなかなか着用していないように感じる。特に、駅まで自転車を利用する学生さんの着用率が低い。 警察の街頭指導や県の教育庁から、各学校への指導をしていると思うが、可能であれば協議会からも、市内の高校に文書等によるヘルメット着用の再徹底のような取組ができないか。	【会長】 まだまだヘルメットが着用されていないケースが見られるということである。 ご提案いただいたように、協議会の中で、文書による各高校への通知等の取組ができるかどうか、委員の皆様とご相談させていただきながら、検討したい。 【委員】 情報提供 大分県では、毎年2回、ヘルメット着用調査を行っている。本年度も4月に大分市・中津市・日田市・佐伯市の4つの市で主に下校時に実施した。大分市の調査場所は大分駅と府内大橋の2ヶ所である。 県では、令和3年度より、県立の高校生については、ヘルメットの着用を義務化しているが、学校を離れた場所でのヘルメット着用率は年々下がってきているのが現状である。今年度のヘルメット着用率は89.1%であり、以前は90%以上が普通であったが、現在は90%を下回っている状態である。 県内9ブロックの高校の代表者が集まる中央会議と県内9ブロックごとで行われる地域会議にて情報交換を行っている。会議では、この状況やこれからの取組等について協議するなど、ヘルメット着用の強化を進めているところである。
---	--	---

3	【委員】意見・要望 全国的な調査で、ヘルメットの着用率は全国 1 位が愛媛県であり、2 位が大分県である。高校生のヘルメット着用義務化を一番最初に実施したのが愛媛県であり、その次が大分県である。ヘルメット着用率のサンプルは圧倒的に通学の高校生が多いので、特別すごいということではなく、始めた順番が早かった、ということも大きな要因と考える。 学生以外の年齢層の方が、どれぐらいヘルメットを着用しているかというところが全然表に出ていない。ヘルメット着用率の調査では、なかなか属性まで確認するのは難しいと思うが、学生だけに限らず、それ以外の年齢層のヘルメットの着用がどれぐらい浸透しているのか。そういったところもきっちりと押さえた上で、どういう方策があるのか、ご検討いただきたい。	—
---	--	---

議事（４）「大分市自転車活用推進計画」実績報告

番号	発言要旨	回答要旨
1	—	—

議事（５）「ネットワーク計画」の見直しについて

番号	発言要旨	回答要旨
1	—	—

その他

番号	発言要旨	回答要旨
1	【委員】 高校生の通学や社会人の通勤における自転車利用の促進はいいと思うが、高齢者の利用促進についても考える必要がある。 高齢者の免許返納などの課題がある中、自動車の代わりとなる自転車がいかに有効か、というところを発信し、示していけるとよい。高齢者の皆さんは健康にものすごく関心がある。そこについてもっと発信し、広い年代の市民の皆さんに自転車は身体によい、ということが伝われば、目標とする「健康」にも繋がりを、また、自転車への関心も沸いてくるのではないかなと思う。 せっかく関係課として健康課が入っている。筋力をつけるとか、心肺機能を向上させるなど、自転車には本当に良い面がたくさんある。この健康の面、そして高齢者の利用促進のところにもう少し視点を向けてもよいのではないかなと思う。	【事務局】 資料１事業報告書 16 ページに記載のとおり、大分市における高齢者向けの取組の一つとして、電動アシスト自転車の普及促進事業を行っている。 高齢者の方は、体力的にもきつくなってくることもあり、免許返納後の移動手段として、電動アシスト自転車を一定期間貸し出し、実際に体験していただいている。 電動アシスト自転車と普通の自転車との違いを体験してもらうことで、今後の移動手段の１つの選択肢として検討していただきたいと考えている。

2	【委員】 ヘルメットの着用率について調査をしているが、その際に、学生や小学生、社会人、高齢者など、利用者の割合を、より具体的にデータとして出せるとよい。高齢者が多い、という数字が出れば、その対策の必要性も見えてくるのではないか。	【事務局】 ヘルメット着用率については警察庁から毎年発表されているが、高齢者を特定したものは出てない。 今後、高齢者のヘルメットの着用の状況についても注視していきたい。
3	【委員】 観光課のサイクリング用観光パンフレット「RIDE ON OITA CITY」について、例えば県外の観光客などで自転車に乗られる方は自分のバイクを持ってきて乗りたい、というのが本音だと思う。自分の自転車をどのように持ってくるのか、どのようにイメージしているか。 また、外国の観光客のほうが観光プラスアクティビティということで、こういうものに対してすごく取り組む方が多いが、パンフレットは日本語版となっている。外国の観光客の方にどのように発信していくのか。	【観光課】 県外の方については、輪行バッグなどでの移動を想定しており、そういった方に対して、国内最大級のサイクルイベントである大阪のサイクルモードや、東京のサイクルモードなどを含め、大分県とも連携しながらPRしていきたいと考えている。 また、現在、大分県がインバウンド客の誘致に取り組んでおり、市においても、外国の観光客への発信方法を含め、大分県と連携しながら検討を進めているところである。
4	【委員】意見・要望 サイクルフェスのようなすでに自転車に乗られている、興味がある方に刺激を与えるイベントというのはもちろん大事だと思うが、自転車乗ってない人への自転車利用を促す、そういうイベントも考えていただいた方がよい。	—